

お台場旧防波堤（2島）における鳥類のモニタリング調査 秋季調査（10月）報告書

2021年11月 一般社団法人お台場海づくり協議会

1. 調査目的

お台場海浜公園内旧防波堤内における鳥類の生息環境の保全について検討するために、当地における鳥類の利用状況の現況を把握するとともに、今後の経年変化を把握するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

お台場海浜公園内旧防波堤2島及び周辺水域（周辺50m程度）

3. 調査期日等

調査期日等を表1に示す。

表1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
令和3年10月21日（木）	8:00～14:00	晴のち曇

4. 調査方法

各調査項目において、倍率8～10倍程度の双眼鏡や倍率20～60倍程度の望遠鏡等を必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、上陸後に実施する（2）～（4）の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2島に調査員を1名ずつ配置し、2島同時に実施した。また、補足調査として（5）の調査を行った。

（1） 船上センサス

2島の50m程度沖を船舶により定速で周回しながら、2島及び周辺を観察し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

（2） ラインセンサス

2島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速1～2km程度の速度で歩きながら目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。センサスルートは各島に1本を設定し、観察範囲は片側50m（両側100m）とした。

(3) 定点観察調査

2島の各2点に眺望のよい定点を設定し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。観察半径は50m程度、調査時間は各30分間とした。

(4) 任意観察調査

2島を任意に踏査し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(5) その他

● 自動撮影カメラによる調査

第5回秋季調査(※調査回の定義については後述する。)においてホンダタヌキのため糞が確認されたため、同回の冬季調査から自動撮影カメラを西島に1台設置した。今回、回収するデータの撮影期間は前回調査から107日間であった。(第6回夏季～第7回秋季調査)

● その他の生き物の記録

鳥類調査時に特記すべき生き物が確認された場合は、種名、個体数、行動等を記録した。



写真 1(1) 各調査手法における調査風景



写真 1(2) 各調査手法における調査風景

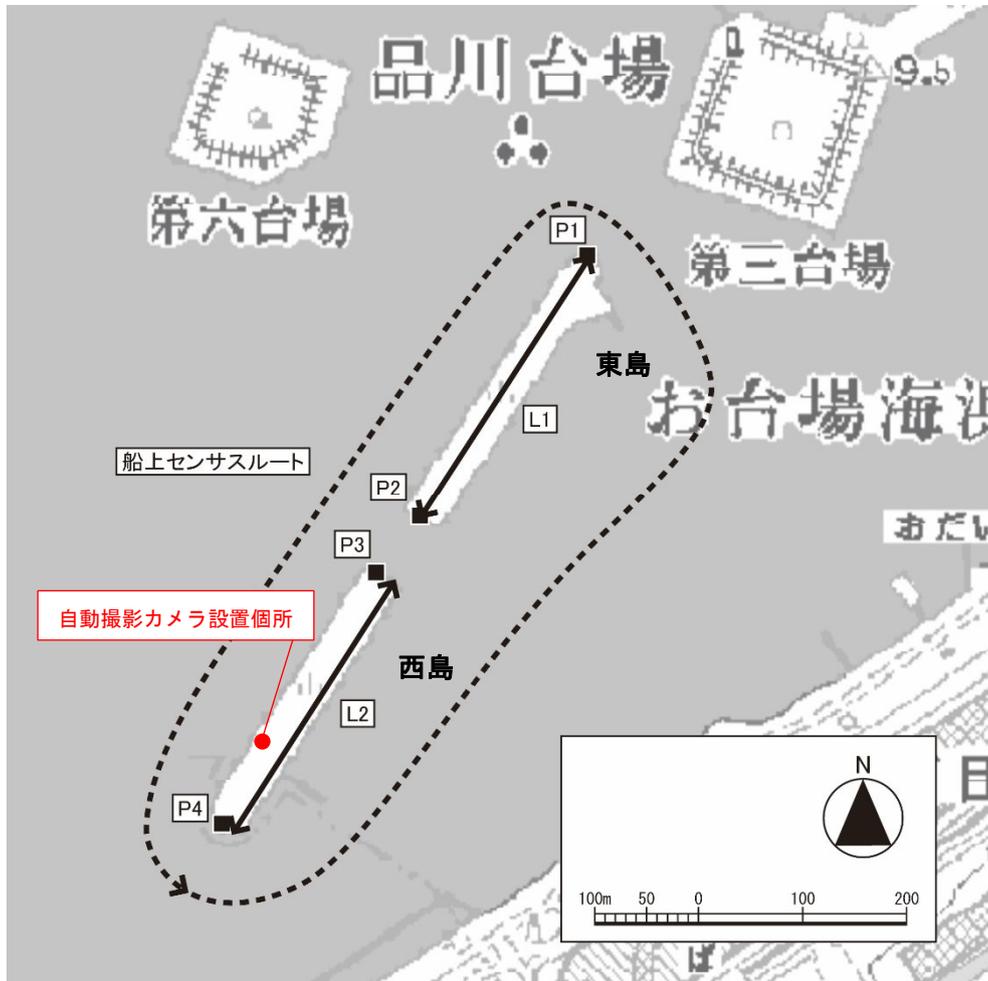


図 1 調査地点

5. 評価方法

(1) 調査回の定義

各調査結果をとりまとめ、過去の調査と比較をすることで、今回の調査結果の評価をした。調査回の定義を表 2 に示す。今回は第 7 回の秋季調査にあたる。

表 2 調査回の定義

調査回	調査時期
第 1 回	平成 27 年夏季～平成 28 年春季
第 2 回	平成 28 年秋季～平成 29 年夏季
第 3 回	平成 29 年秋季～平成 30 年夏季
第 4 回	平成 30 年秋季～令和元年夏季
第 5 回	令和元年秋季～令和 2 年夏季
第 6 回	令和 2 年秋季～令和 3 年夏季
第 7 回	令和 3 年秋季～令和 4 年夏季(予定)

(2) 重要種の選定根拠

重要種の選定根拠を表 3 に示す。このうち、いずれかに該当する種を重要種として記録した。

表 3 重要種の選定根拠

No.	選定資料	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)	特天:特別天然記念物 天 :天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号)※以下、種の保存法と記す	国内:国内希少野生動植物種 国際:国際希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020 鳥類」(令和 2 年、環境省) ※以下、環境省 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
④	東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020 年版 『東京都レッドリスト(本土部)2020 年版』 (令和 2 年、東京都)※以下、東京都 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群 * :留意種

6. 調査結果

(1) 現地調査結果

鳥類確認種目録を表 4、船上センサス結果を表 5、ラインセンサス結果を表 6、定点観察結果を表 7 に示す。

- 現地調査の結果、10 目 20 科 27 種が確認された (表 4)。
- 確認種のおよそ半数は水域やその周辺に生息する鳥類であり、カルガモやアオサギ、ユリカモメ等 14 種が確認された。島内では、シジュウカラやヒヨドリ、メジロ等の森林やその周辺に生息する鳥類が 7 種確認されたほか、ムクドリやスズメ等の都市部で見られる鳥類が 2 種、様々な環境で見られるキジバトやトビ、ハシブトガラス等の鳥類が 4 種確認された (表 4)。
- 渡り区別にみると、キジバトやムクドリ、ハクセキレイ等の留鳥 (ある地域で一年中見られる種) が最も多く、次いでコガモやユリカモメ、セグロカモメ等の冬鳥 (ある地域で冬に見られる種) が確認された。
- 重要種はカンムリカイツブリ、ダイサギ、オオバン、イソシギ、ウミネコ、オオセグロカモメ、トビ、ノスリ、ハヤブサ、モズ及びイソヒヨドリの合計 11 種が確認された (表 4)。島内では、護岸や人工構造物で採餌や休息するオオバンやイソヒヨドリ及びダイサギ等、砂地で採餌するイソシギ、常緑広葉樹林にとまり休息するトビやノスリ、低茎草地で採餌するモズが確認された。また、島周辺の海域では、採餌するカンムリカイツブリや上空を通過するウミネコやオオセグロカモメ、カラスに追われるハヤブサが確認された。
- 外来種は確認されなかった (表 4)。
- 確認個体数が特に多かった種はヒヨドリであった。本種は、船上センサスにおいて両島で合計 23 個体 (表 5)、ラインセンサスでは合計 126 個体が確認され、優占度は東島で 82%、西島で 68%を占めた (表 6)。定点観察調査では合計 300 個体 (表 7) が確認された。主に群れて移動する個体が確認されたほか、島内の落葉広葉樹や常緑針葉樹にとまり採餌、休息する個体や両島の往来、上空を通過する個体が確認された。
- ヒヨドリに次いで確認個体数が多かった種はイソシギであった。本種は、船上センサスにおいて両島で合計 14 個体 (表 5)、ラインセンサスでは合計 7 個体が確認され、優占度は東島で 3%、西島で 8%を占めた (表 6)。定点観察調査では合計 14 個体 (表 7) が確認された。護岸や人工構造物、砂地で採餌、休息する個体が確認された。
- 常緑広葉樹林の枝や葉の裏で昆虫や植物の実や種子等を採餌するスズメやシジュウカラ、メジロ等、樹上や枝で休息するノスリやヒヨドリ、低茎草地では植物の種子をついばむカワラヒワ等が確認された。

(2) 過去調査との比較

それぞれの前回調査（秋季）との比較について、表 8 に確認種、表 9 に船上センサス結果、表 10 にラインセンサス結果、表 11 に定点観察結果、表 12 にこれまでの鳥類確認種目録を示す。

- 前回調査（秋季）との確認種数の比較は、第 6 回では東島で 21 種、西島で 15 種、合計 26 種、第 7 回では東島で 23 種、西島で 24 種、合計 27 種であった（表 8）。第 6 回及び第 7 回で共通して確認された種は 20 種と 6 割ほどであり、例年に比べて鳥類相の変化は大きくなった。すでに渡来した冬鳥や、不定期にみられる種の確認の充実が要因と考えられる。
- 第 6 回で確認されず第 7 回で確認された種はコガモやカンムリカイツブリ、ダイサギ、ノスリ、ハヤブサ、モズ及びジョウビタキの 7 種であり、第 6 回で確認され第 7 回で確認されなかった種はハシビロガモやカッコウ科の一種、ミサゴ、ウグイス、オオムシクイ及びセグロセキレイの 6 種であった（表 8）。前述したとおり、第 6 回では渡来していなかったコガモ、カンムリカイツブリ及びジョウビタキの等の冬鳥が第 7 回で確認され、ダイサギ、ミサゴ、ノスリ、ハヤブサ、ウグイス、オオムシクイ、モズ、セグロセキレイは、これまでも不定期的に記録されている種であり両調査回において一時的に鳥の島に飛来したものと考えられる。ハシビロガモ及びカッコウ科の一種は記録が少ない種で、渡りの途中で確認されたものと考えられる。
- 第 6 回より第 7 回で個体数が多く、優占度が高い種はヒヨドリであった（表 9、10、11）。主に群れで飛翔する様子や落葉広葉樹や針葉樹林で採餌する個体が多かった。
- 第 5 回ぶりにモズが確認された。植物相の生長により、高茎および低茎草本相が広範に見られ、採餌環境が整ったためと考えられる。

(3) その他

その他方法（自動撮影カメラ設置による調査及び鳥類調査時の他項目の調査）による結果について鳥類 3 目 3 科 3 種、哺乳類 1 目 1 科 1 種が確認された。

- 自動撮影カメラの画像を解析した結果、鳥類ではアオサギ、オオタカ及びハシブトガラスの 3 種、哺乳類ではドブネズミ 1 種が確認された。
- 重要種として、オオタカ（環境省 RL：準絶滅危惧、東京都 RL：絶滅危惧 IB 類）の成鳥雌個体が 9 月 1 日及び 28 日に撮影された。

表 4 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	渡り 区分	調査時期		重要種選定基準				
					秋季(10月)		①	②	③	④	
					東島	西島					
1	カモ	カモ	カルガモ	留鳥	○	○					
2			コガモ	冬鳥	○						
3	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	冬鳥	○					*②	
4	ハト	ハト	キジハト	留鳥		○					
5	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	○	○					
6	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	○	○					
7			ダイサギ	留鳥	○	○					NT
8	ツル	クイナ	オオバン	留鳥		○				CR	
9	チドリ	シギ	イソシギ	留鳥	○	○				VU	
10			カモメ	ユリカモメ	冬鳥	○	○				
11		ウミネコ		留鳥	○	○					*①
12		セグロカモメ		冬鳥	○	○					
13		オオセグロカモメ	冬鳥	○	○					NT	
14	タカ	タカ	トビ	留鳥	○	○				NT	
15			ノスリ	留鳥	○	○					CR
16	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	留鳥		○		国内	VU	EN	
17	スズメ	モズ	モズ	留鳥	○					CR	
18		カラス	ハシブトガラス	留鳥	○	○					
19		シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	○	○					
20		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	○	○					
21		メジロ	メジロ	留鳥	○	○					
22		ムクドリ	ムクドリ	留鳥		○					
23		ヒタキ		ジョウビタキ	冬鳥	○	○				
24				イソヒヨドリ	留鳥	○	○				
25		スズメ	スズメ	留鳥	○	○					
26		セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	○	○					
27	アトリ	カワラヒワ	留鳥	○	○						
合計	10 目	20 科	27 種	-	23 種	24 種	0 種	1 種	2 種	10 種	

注1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。

注2. 重要種選定基準は表3に従った。

注3. 重要種選定基準④ *:留意種

*①:準絶滅危惧(NT)に準ずる(現時点では絶滅のおそれはないが、生息環境が減少していることから動向に留意する必要がある)

*②:人為的な環境配慮により個体群が維持されている。

表 5 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				秋季(10月)		
				東島	西島	
1	カモ	カモ	カルガモ	2	0	2
2			コガモ	4	0	4
3	カツオドリ	ウ	カワウ	5	2	7
4	ペリカン	サギ	アオサギ	19	3	22
5	チドリ	シギ	イソシギ	7	7	14
6		カモメ	ウミネコ	0	1	1
7			セグロカモメ	1	0	1
8			オオセグロカモメ	0	2	2
9	タカ	タカ	トビ	0	2	2
10	スズメ	カラス	ハシブトガラス	1	2	3
11		シジュウカラ	シジュウカラ	2	0	2
12		ヒヨドリ	ヒヨドリ	3	20	23
13		セキレイ	ハクセキレイ	0	1	1
合計	6 目	10 科	13 種	44	40	84
				9 種	9 種	13 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				秋季(10月)				
				L1(東島)		L2(西島)		
				個体数	優占度	個体数	優占度	
1	カモ	カモ	カルガモ	2	2%	0	0%	2
2	カツオドリ	ウ	カワウ	1	1%	2	4%	3
3	チドリ	シギ	イソシギ	3	3%	4	8%	7
4		カモメ	ウミネコ	0	0%	1	2%	1
5	タカ	タカ	トビ	0	0%	1	2%	1
6	スズメ	モズ	モズ	1	1%	0	0%	1
7		カラス	ハシブトガラス	5	5%	2	4%	7
8		シジュウカラ	シジュウカラ	2	2%	2	4%	4
9		ヒヨドリ	ヒヨドリ	90	82%	36	68%	126
10		スズメ	スズメ	4	4%	0	0%	4
11		セキレイ	ハクセキレイ	1	1%	3	6%	4
12		アトリ	カワラヒワ	1	1%	2	4%	3
合計		5 目	12 科	12 種	110	100%	53	100%
				10 種		9 種		12 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 7 定点観察結果

No.	目名	科名	種名	調査時期								合計 個体数
				秋季(10月)								
				東島				西島				
				P1		P2		P3		P4		
				個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	
1	カモ	カモ	カルガモ	2	6%	0	0%	9	30%	0	0%	11
2	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	3	9%	0	0%	0	0%	0	0%	3
3	ハト	ハト	キジバト	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	1
4	カツオドリ	ウ	カワウ	1	3%	6	2%	2	7%	7	13%	16
5	ペリカン	サギ	アオサギ	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	1
6	ツル	クイナ	オオバン	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	1
7	チドリ	シギ	イソシギ	2	6%	3	1%	5	17%	4	7%	14
8		カモメ	ウミネコ	0	0%	2	1%	0	0%	0	0%	2
9			オオセグロカモメ	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	1
10	タカ	タカ	トビ	4	11%	1	0%	1	3%	2	4%	8
11	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	6%	4	2%	4	13%	1	2%	11
12		シジュウカラ	シジュウカラ	0	0%	0	0%	0	0%	2	4%	2
13		ヒヨドリ	ヒヨドリ	19	54%	237	91%	7	23%	37	67%	300
14		ヒタキ	ジョウビタキ	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	1
15		スズメ	スズメ	0	0%	4	2%	0	0%	0	0%	4
16		セキレイ	ハクセキレイ	0	0%	1	0%	0	0%	1	2%	2
17	アトリ	カワラヒワ	0	0%	2	1%	0	0%	0	0%	2	
合計	9 目	16 科	17 種	35	100%	260	100%	30	100%	55	100%	380
				9 種		9 種		8 種		8 種		17 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 8 前回調査結果との比較：確認種（秋季）

No.	種名	調査時期			
		第 6 回 (R2~R3)		第 7 回 (R3~R4)	
		秋季(10月)		秋季(10月)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	○	○	○	○
2	ハシビロガモ		○		
3	コガモ			○	
4	カンムリカイツブリ			○	
5	キジバト	○			○
6	カワウ	○	○	○	○
7	アオサギ	○	○	○	○
8	ダイサギ			○	○
9	オオバン	○			○
10	カッコウ科の一種	○			
11	イソシギ	○	○	○	○
12	ユリカモメ	○	○	○	○
13	ウミネコ	○	○	○	○
14	セグロカモメ	○		○	○
15	オオセグロカモメ	○		○	○
16	ミサゴ	○			
17	トビ	○		○	○
18	ノスリ			○	○
19	ハヤブサ				○
20	モズ			○	
21	ハシブトガラス	○	○	○	○
22	シジュウカラ	○	○	○	○
23	ヒヨドリ	○	○	○	○
24	ウグイス	○			
25	オオムシクイ		○		
26	メジロ	○		○	○
27	ムクドリ	○			○
28	ジョウビタキ			○	○
29	イソヒヨドリ		○	○	○
30	スズメ	○		○	○
31	ハクセキレイ	○	○	○	○
32	セグロセキレイ		○		
33	カワラヒワ		○	○	○
合計	33 種	21 種	15 種	23 種	24 種
		26 種		27 種	

表 9 前回調査との比較：船上センサス結果（秋季）

No.	種名	調査時期			
		第 6 回 (R2~R3)		第 7 回 (R3~R4)	
		秋季(10月)		秋季(10月)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	0	0	2	0
2	コガモ	0	0	4	0
3	カワウ	13	1	5	2
4	アオサギ	20	2	19	3
5	イソシギ	2	7	7	7
6	ユリカモメ	1	0	0	0
7	ウミネコ	1	4	0	1
8	セグロカモメ	0	0	1	0
9	オオセグロカモメ	0	0	0	2
10	トビ	0	0	0	2
11	ハシブトガラス	4	2	1	2
12	シジュウカラ	1	1	2	0
13	ヒヨドリ	20	110	3	20
14	スズメ	5	0	0	0
15	ハクセキレイ	1	1	0	1
合計個体数		68	128	44	40
合計島別種数		10 種	8 種	9 種	9 種
合計種数		10 種		13 種	

表 10 前回調査との比較：ラインセンサス結果（秋季）

No.	種名	調査時期							
		第 6 回(R2~R3)				第 7 回(R3~R4)			
		秋季(10月)				秋季(10月)			
		L1(東島)		L2(西島)		L1(東島)		L2(西島)	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	0	0%	0	0%	2	2%	0	0%
2	カワウ	0	0%	4	18%	1	1%	2	4%
3	イソシギ	1	2%	2	9%	3	3%	4	8%
4	ユリカモメ	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%
5	ウミネコ	1	2%	0	0%	0	0%	1	2%
6	トビ	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%
7	モズ	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%
8	ハシブトガラス	9	16%	3	14%	5	5%	2	4%
9	シジュウカラ	4	7%	0	0%	2	2%	2	4%
10	ヒヨドリ	40	70%	7	32%	90	82%	36	68%
11	スズメ	0	0%	0	0%	4	4%	0	0%
12	ハクセキレイ	2	4%	0	0%	1	1%	3	6%
13	カワラヒワ	0	0%	5	23%	1	1%	2	4%
合計	13 種	57	100%	22	100%	110	100%	53	100%
		6 種		6 種		10 種		9 種	

表 11 前回調査との比較：定点観察結果（秋季）

No.	種名	調査時期															
		第 6 回 (R2~R3)								第 7 回 (R3~R4)							
		秋季 (10 月)								秋季 (10 月)							
		東島				西島				東島				西島			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	2	6%	0	0%	9	30%	0	0%
2	ハシビロガモ	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
3	カンムリカイツブリ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	3	9%	0	0%	0	0%	0	0%
4	キジバト	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%
5	カワウ	4	13%	4	2%	3	18%	1	2%	1	3%	6	2%	2	7%	7	13%
6	アオサギ	0	0%	1	1%	0	0%	2	3%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%
7	オオバン	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%
8	イソシギ	2	7%	2	1%	2	12%	1	2%	2	6%	3	1%	5	17%	4	7%
9	ユリカモメ	0	0%	0	0%	0	0%	2	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
10	ウミネコ	4	13%	6	3%	0	0%	6	10%	0	0%	2	1%	0	0%	0	0%
11	セグロカモメ	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
12	オオセグロカモメ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%
13	トビ	2	7%	0	0%	0	0%	0	0%	4	11%	1	0%	1	3%	2	4%
14	ハシブトガラス	2	7%	3	2%	2	12%	1	2%	2	6%	4	2%	4	13%	1	2%
15	シジュウカラ	1	3%	2	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4%
16	ヒヨドリ	11	37%	152	88%	9	53%	45	74%	19	54%	237	91%	7	23%	37	67%
17	メジロ	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18	ムクドリ	2	7%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
19	ジョウビタキ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%
20	スズメ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	4	2%	0	0%	0	0%
21	ハクセキレイ	0	0%	2	1%	1	6%	1	2%	0	0%	1	0%	0	0%	1	2%
22	カワラヒワ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	1%	0	0%	0	0%
合計	22 種	30	100%	173	100%	17	100%	61	100%	35	100%	260	100%	30	100%	55	100%
		10 種		9 種		5 種		10 種		9 種		9 種		8 種		8 種	

表 12 (1) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 7 回)

No.	種名	調査時期													
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 夏)		第 7 回 (R3 秋～)	
		東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島
1	オカヨシガモ				○		○		○	○					
2	ヒドリガモ									○	○				
3	マガモ		○	○	○		○	○	○						
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5	ハシビロガモ											○			
6	オナガガモ				○	○	○			○					
7	コガモ							○						○	
8	ホシハジロ						○	○		○	○	○			
9	キンクロハジロ										○				
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
11	ウミアイサ		○					○	○	○			○		
12	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
13	ミミカイツブリ			○								○			
14	ハジロカイツブリ	○	○	○	○				○	○	○	○	○		
15	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
16	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
17	ゴイサギ					○									
18	ササゴイ		○												
19	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
20	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
21	チュウサギ									○					
22	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
23	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
24	カッコウ科の一種											○			
25	コチドリ	○	○		○	○	○			○	○	○			
-	ヤマシギ												●		
26	タシギ								○						
27	キアシシギ									○					
28	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
29	キョウジョシギ					○	○								
30	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
31	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
32	カモメ	○	○			○									
33	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
34	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○				○		○	○	
35	コアジサシ	○	○	○	○	○	○		○						
36	ミサゴ	○		○			○		○		○	○			
37	ハチクマ	○													
38	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
39	ハイタカ		○		○					○					
40	オオタカ	○		○	○	○	○		○		●	○	●	○	

表 12 (2) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 7 回)

No.	種名	調査時期													
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 春)		第 7 回 (R3 秋～)	
		東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島
41	ノスリ		○	○	○	○		○		○		○	○	○	○
42	カワセミ			○			○			○		○			
43	チョウゲンボウ		○				○	○							
44	ハヤブサ			○	○	○	○	○	○						○
45	モズ			○	○	○	○	○	○	○	○			○	
46	カケス				○										
47	オナガ			○	○	○	○			○					
48	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
49	ヤマガラ												○		
50	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
51	ヒバリ						○								
52	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
53	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
54	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		
55	オオムシクイ								○				○		
56	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
57	オオヨシキリ			○		○				○	○	○			
58	ムクドリ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○
59	コムクドリ				○	○									
60	シロハラ	○	○	○	○						●		○		
61	アカハラ	○			○			○			○				
62	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
63	ジョウビタキ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
64	イソヒヨドリ	○	○		○		○		○		○		○	○	○
65	キビタキ	○				○									
66	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
67	キセキレイ			○											
68	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
69	セグロセキレイ				○								○		
70	タヒバリ						○				○				
71	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
72	シメ							○				○			
73	ホオジロ	○		○	○			○		○					
74	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
75	オオジュリン			○						○					
76	ドバト	○	○					○			○	○	○		
合計	77 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	45 種	38 種	38 種	44 種	41 種	40 種	38 種	23 種	25 種
		47 種		52 種		51 種		47 種		49 種		46 種		27 種	

注 1. ●:自動撮影カメラのみで確認された種を示す。他調査回とは調査手法が異なるため、種数に計上しなかった。



カルガモ



コガモ



カンムリカイツブリ(重要種)



カワウ



アオサギ



ダイサギ(重要種)



オオバン(重要種)



イソシギ(重要種)

写真 2(1) 鳥の島で確認された主な鳥類



ユリカモメ



ウミネコ(重要種)



セグロカモメ



トビ(重要種)



ノスリ(重要種)



モズ(重要種)



ヒヨドリ



イソヒヨドリ(重要種)

写真 2(2) 鳥の島で確認された主な鳥類



写真 2(3) 鳥の島で確認された主な鳥類

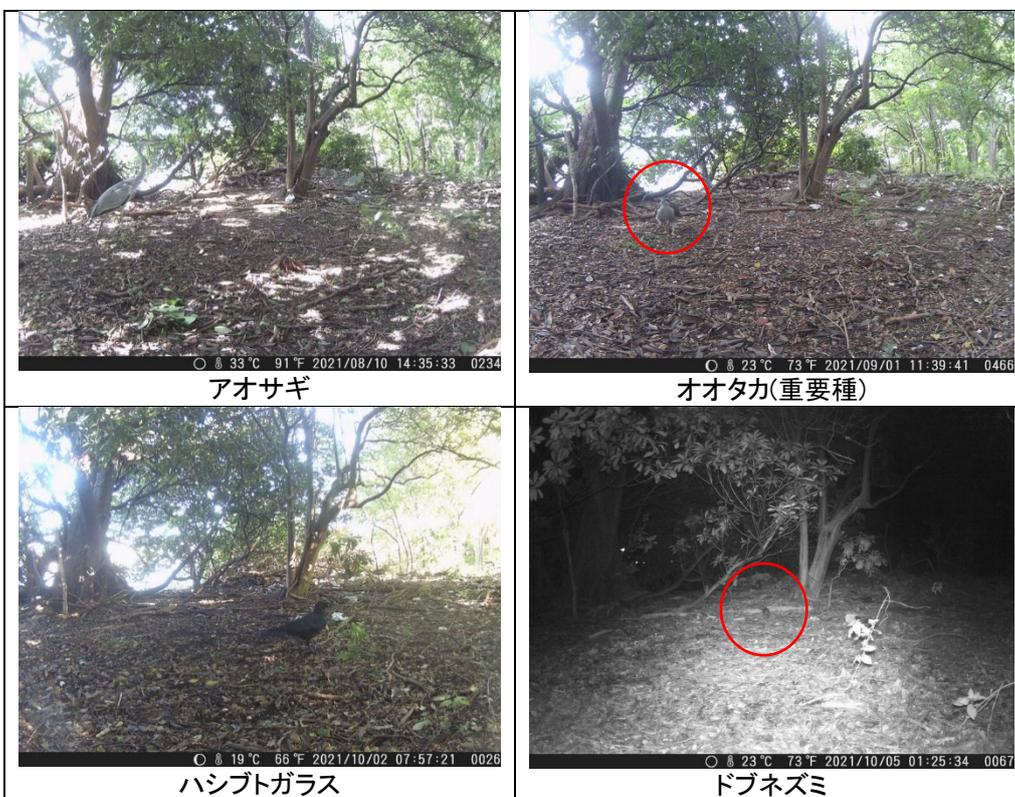


写真 3 自動撮影カメラ確認された生き物